明日をひらく都市
OPEN × PIONEER
横浜市

安心して入学を迎えるために

4月から小学生になるお子さんをもつ保護者の皆様へ





やってみたい！



伝え合う





チャレンジする



?を見つける



わくわくする！

写真は、入学後、新しい環境に関わりながら、
いろいろな発見をしたり、疑問を抱いたりしている子どもたちの様子です。
今、お子さんが、好きなことに夢中になり、遊びに没頭したり、
周囲の人と安心して関わったりしながら育んでいる好奇心や想像力、
粘り強さなどを、小学校でも発揮しながら学んでいきます。



横浜市こども青少年局

入学当初の 1年生の 学校生活

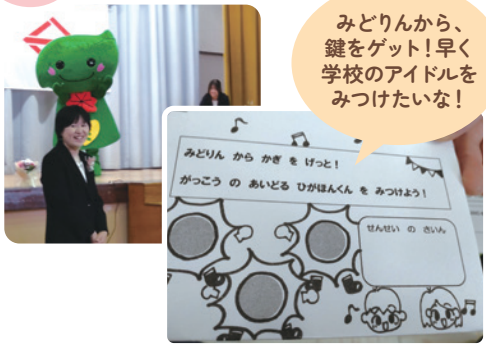
幼児期の育ちと学びをつなぐ横浜のスタートカリキュラム

入学当初は、園の生活に近い時間割や場を設定したり、職員が子どもの話をよく聞いたり見守ったりしながら、子どもたちが安心して過ごせる環境を工夫します。また、子どもの「やってみたい」という気持ちを大切にすることで、幼児期の「遊び」を通して育まれてきたことが小学校でも発揮されるようにしています。

登校～午前の授業

入学式

入学式をスタートカリキュラムの1日目として、工夫している学校もあります。



なかよしタイム　安心して学校生活を始められるように工夫された活動







わくわくタイム　生活科を中心とした合科的な学習





ぐんぐんタイム　教科等を中心とした学習







給食・清掃・午後の授業・下校

給食の時間



休み時間



下校



集団で登下校する学校もあります。小学校に慣れるまで、安全に気を付けて帰ることができるように学校の職員や保護者、地域のボランティアの方による見守りも行われています。

※「なかよしタイム」「わくわくタイム」「ぐんぐんタイム」などの呼び方は学校によって異なります。※午前の授業は4校時までの学校と5校時までの学校があります。



入学当初は、環境の変化から、疲れて帰宅するお子さんもいます。様子を見ながら話しかけてください。お子さんのちょっとしたつぶやきや表情を受け止めていただきながら、頑張ったことや楽しかったことなど、いろいろな話を聞いてください。

子どもに関わる大人がみんなで一緒に支える

～今と未来を生きる子どもたちの育ちと学び～

横浜の教育が目指す人づくり ※「横浜教育ビジョン2030」より

「自ら学び 社会とつながり ともに未来を創る人」

主体的に考え学び続け、多様な人々や社会と関わり合うことを大切にしながら資質・能力を育みます。
個性や能力を生かしながら、夢や目標にチャレンジし、よりよい社会や新たな価値を創造できる人を育みます。



知識及び技能



思考力・判断力
表現力など



学びに向かう力
人間性など

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」(10の姿)を手がかりに、園と学校双方の子どもの成長の様子や手立てなどについての相互理解や協働を目指します。(「幼保小の架け橋プログラム」の実施)

子どものよさや育ちがつながるよう、園と学校の職員が引継ぎなども一緒に行っています

保育者と共有したい子どもの姿・方向性 ※「よこはま☆保育・教育宣言」より

「今と未来を生きる子どもを育みます」

①安心できる環境をつくり、一人ひとりを大切に保育します。
②子どもの育ちと学びを支える主体的な遊びを大切にします。



気付く・わかる
やってみようとする



考える
試す・工夫する



よりよい生活を
営もうとする



**乳児期に育まれる信頼感・安心感が
生涯にわたる生きる力の基盤になります。**



小学校以降の教育
教科等を通した学び

5歳児～1年生
「架け橋期」
円滑な接続を目指す

乳幼児期の教育
(幼稚園・保育園・認定こども園)
遊びを通した総合的な学び

家庭・地域

立場の違いを越えて、大人がみんなで一緒に大切にしていきたいこと

「よこはま☆保育・教育宣言
～乳幼児の心もちを大切に～」
令和2年3月



子どもの
安心感・信頼感を育みます

温かく受容的・応答的に関わることで、子どもたちが安心できる場や信頼できる関係を作ります。うまくいかない時、不安になった時に、気持ちを受け止め、安心して戻れる場や関係を作ります。

子ども一人ひとりを
受け止めます

子どもは一人ひとり違います。目の前の子どもを理解し、ありのままの姿を大切にし、受け止めます。

子どもが夢中になって遊び込むことによる
育ちを大切にします

子どもが夢中になって遊びこむことで、育みたい資質・能力が総合的に育ちます。子どもがやりたいこと、夢中になれることにじっくり取り組めるようにします。

詳しくはこちら

Q 心配なことがあるときは、どこに相談すればよいですか？

A 「小学校の授業についていくことができるか」「友達とうまくいかないのでは」等、就学に関して心配なことがありましたら、お子さんが通っている園や区役所こども家庭支援課にご相談ください。保護者の方と共に考え、必要に応じて関係機関を紹介するなど小学校へつなげるお手伝いをします。また、バリアフリーの状態も含め、お子さんが就学する上で配慮してほしいこと等がありましたら、就学先の小学校にご相談ください。小学校には、児童支援専任教諭が配置され、こうした相談にも対応しています。（横浜市のウェブサイトにエレベーターの設置状況を掲載しています。）

Q 入学に向けて、手続きは何かありますか？

A 小学校では入学説明会が２月頃に行われる予定です。（就学時健康診断の際に小学校から日時等のお知らせがあります。）入学説明会で、学校生活、登下校、入学までの準備、給食費や学校納入金の引き落とし等の説明があります。区役所から届く「就学通知書」は、家庭で保管し、入学式の日に学校にお持ちください。

Q 食物アレルギー、好き嫌いがある、食べるのが遅い等、給食のことについて相談できますか？

A 食物アレルギー対応（除去食など）等、学校に相談したいことがありましたら、就学時健康診断や入学説明会などの際にご相談ください。1年生の始めは、食べる量や時間に個人差が見られますが、一人ひとりの食べられる量を考慮し、配膳・食事・後片付け等も配慮しています。

Q 小学校では読み書きはどのように学びますか？今しておいた方がよいことはありますか？

A 小学校では、読んだり書いたりする楽しさや、伝え合う楽しさを感じられるように学習をしていきます。そして、文字の書き順や鉛筆の持ち方等も学びます。年長から1年生にかけての時期は言葉に対する興味が高まってくるお子さんもいます。家庭で読み聞かせをしたり、園での出来事を聞いてあげたりしてください。

Q 学校が終わった後（放課後）、子どもたちが過ごせる場について教えてください。

横浜市の放課後児童健全育成事業について

- 全ての市立小学校に「放課後キッズクラブ」（キッズ）があります。キッズは、全ての子どもの「遊び場」としての「わくわく【区分１】」と、仕事などで昼間保護者が家庭にいない子どもたちのために「遊びの場」と「生活の場」を兼ね備えた場としての「すくすく【区分２A・B】」があり、３つの区分から選択して安全に放課後を過ごすことができます。
- 学校外には保護者や地域の方が中心になって運営している「放課後児童クラブ」（学童保育）がある地域もあり、仕事などで昼間保護者が家庭にいない子どもたちが、家庭的な雰囲気の中で自主的に宿題をしたり、本を読んだり、おやつを食べたりして安全に放課後を過ごすことができます。
- 各クラブの連絡先については、区役所こども家庭支援課にお問い合せいただくか、横浜市または各区のウェブサイトでご確認ください。



学年を越えた友達と交流することができます

放課後キッズクラブの様子



ある日のメニュー
ごはん、牛乳、肉じゃが、ごまじょうゆあえ、焼きのり



Q 入学後の生活などについて、もっと知りたいのですが。

A 小学校により環境などが異なりますので、入学予定の小学校の説明会等をご活用ください。直接学校にご連絡をしていただいても構いません。また、園と小学校が連携しているだけでなく、市の様々な機関が、共に子育てを応援しています。



幼保小連携
幼稚園・認定こども園・保育所と小学校の連携・接続に関すること

放課後の居場所
放課後の子どもが過ごせる場について

子どもの通学路交通安全対策
「こども・安全安心マップ」の掲載や学校での交通安全の取組について

各種手続き・相談
エレベーターの設置状況や入学手続きに関すること

よこはま家庭教育支援
「はまっこ子育て」子どもとの関わりや、相談先等に関すること

発行 横浜市こども青少年局 保育・教育支援課 幼保小連携担当 令和8年10月発行
横浜市中区本町６丁目50番地の10 TEL:045-671-3731 FAX:045-663-1925

リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。